

### 産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立 倉敷商業 高等学校
実践場面	インターンシップ（就業体験）
実践日時（時期）	長期休業中の3日間
対象生徒（学年）	2年生全員
連携の形態	<input type="checkbox"/> 包括連携協定（ 商工会議所・商工会 ） <input checked="" type="checkbox"/> その他（生徒の進路等、これまでの関わりのある企業・団体へ個別に依頼 ）
学びの分類	<input type="checkbox"/> 講演会講師・説明会 <input type="checkbox"/> 技術指導 <input checked="" type="checkbox"/> 企業訪問・インターンシップ <input type="checkbox"/> 商品開発・共同研究 <input type="checkbox"/> 最新技術・設備の見学 <input type="checkbox"/> その他

#### 実践の内容

##### 【現状】

- ・生徒は商業の各科目について、教科書の一般的な内容を学び、検定試験などにも取り組み、知識・技術を身につけている。
- ・学校では総合的な探究の時間等を使って地元企業や職業について調べたり、就職している先輩の話の聞いたりして、「働く」ということについてイメージしたり、考えたりする時間がある。
- ・挨拶をはじめとした礼儀や言葉遣い、コミュニケーションなどが、社会では大切なことだと理解しているが、適時適所に使えない。
- ・学校で学び、身につけたことが実社会でどのように生かせるかを体験する場として、また、将来設計について考える機会とし、高い職業意識の涵養を目指して2年生全員が参加する。

##### 【実践内容】

- ・4月中旬に地域の各事業所あてに依頼文と回答用文書を発送する。
- ・生徒受入可能な事業所は、回答用文書に受入期間、人数等を記入して返信していただく。
- ・受入可能企業リストを作成し、生徒へインターンシップの趣旨を説明した後、各自の進路希望を考え合わせてインターンシップ先の希望を提出させる。
- ・生徒は事前学習として企業概要や職種の内容などについて調べたり、礼法指導を受けたりする。
- ・インターンシップ当日は、生徒は各自で事業所へ行き1日実習を行う。実習後は毎日日誌に実習内容や反省を記入する。担当教員はインターンシップ期間中各事業所への巡回訪問を行う。
- ・生徒は事後学習として、振り返りをした後、お礼状を書く。担当教員は日誌のチェックを行い、礼状の確認をして郵送させる。
- ・生徒はキャリア・パスポートに、学んだこと、成長したこと等を記入して今後の進路選択に役立てる。



#### 実践による効果等

- ・学校では学ぶことのできない、仕事の厳しさや働く喜び、やりがいなどを感じることができた。
- ・授業で学んでいる知識・技術が、どのように実社会で生かされているのかを知ることができ、学習への興味・関心の向上につながった。
- ・地元企業は、事業内容を知ってもらい、企業がどのような人材を求めているのかを直接知らせることができる機会となっている。

※実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。（肖像権の確認等（特に企業側）は各校で行った上で提出してください。）